

浜っ子



(文責) 校長 杉本知之

祝 3年生の感動的な旅立ちでした



3月6日(金)、115名の3年生を祝福するかのように温かな春の日差しが差し込む中、第79回卒業式を行いました。「ありがとうございます」と言って卒業証書を受け取る生徒が多いことに驚くとともに、感謝の気持ちを素直に表現できる人に成長したことをうれしく思いました。PTA会長様からは「相手への敬意と感謝を大切に」と祝辞をいただきました。新生徒会長の贈ることばは、3年生が常に目標とする姿を示してくれていたことが伝わってきました。生徒会長の旅立ちのことばは、3年間の思い出とともに、後輩・学校・家族への感謝の気持ちが綴られていました。卒業記念合唱「遙か」は、元気な3年生らしい重厚感あふれるハーモニーを響かせ、会場中が大きな感動に包まれました。



感動の卒業記念合唱

式辞(抜粋)

私は、この学校に来て一番感心していることは、全校生徒が与えられたことに、責任をもって取り組むことです。大きな行事はもちろんのこと、学級や委員会の小さな仕事や役割にも本当に一生懸命取り組むのです。この雰囲気は一朝一夕ではできません。3年生が学校行事や委員会活動、部活動で姿と態度で示してくれたからだと思います。1・2年生が、「生徒会活動がとても楽しかった」、「三年生のようにになりたい」といった3年生への感謝と憧れを口にするのは、3年生との活動に多くの学びがあったからに違いありません。素晴らしい雰囲気と伝統を繋いでくれた3年生、本当にありがとう。

さて、卒業する3年生に、人生の先輩として、一つアドバイスを送ります。

私が高校3年生、大学受験のときの話です。私は関東の大学に行きたかったのですが、現実には甘くなく、大学受験は全て失敗しました。一年間浪人させてもらいましたが関東ではない第5志望の大学にしか合格できませんでした。浪人して確かに成績は向上しましたが、死に物狂いで勉強したという実感もなかったので、当然の結果でした。

そんな自分でも、失敗すると悔しい気持ちになり落ち込みました。結局、第5志望の大学に行くことになりました。最初は「自分は何しにこの大学に来たんだろう?」と考える毎日でしたし、そんな気持ちでしたから友達も作ろうともしませんでした。当然楽しくない大学生活で、大学に通いながらも一度勉強して一年後、関東の大学を受験しようとも考えていました。

でも、半年くらい過ぎたとき、偶然にアパートが近くのクラスメイトと帰り道に遭遇し、話すうちに自然と友達になり、そこから友達の輪が広がっていきました。多くの友達ができ、あっという間に4年の月日が流れました。卒業する頃には、「この大学に入って良かったなあ」としみじみ思いました。

皆さんも、これから歩む長い人生の中で、私のように自分の思いどおりにならない場面や選択をするときが出てくるでしょう。その時に大事にしてほしいのは、**たとえ希望どおりに進めなかったとしても、それは失敗じゃないということ**。そして、**幸せな生活を送ることができるということ**。逆に、自分の行きたかったところに行けた人が、その後幸せな生活が

できているかという、そうでもないんです。思い描いていた一番の選択じゃなく、二番だけでも、その中にも幸せはたくさんあるのです。それを「セカンド・ベスト」と言うのだそうです。たぶんここにいる大人は皆、そういった経験をしていると思います。

人生に失敗はついて回ります。でも、失敗は悪いことではない。プラスにすることもできる。いや成功した以上のプラスにさえすることができる。人生は全てベストなんです。それをベストと思えるかどうかなんです。このことを忘れないでくださいね。

どんな場所でもその場所において良かったと思えること。56年の人生を生きてきて、幸せになるために一番大切なことだと思います。この直江津中学校での生活を良かったと思っている君たちなら絶対、大丈夫です。自信をもって、自分の目の前に現れた場所で、精一杯人生を楽しむことを願っています。私たちは幸せになるために生きているのですから。

結びに、みなさんを育ててくれた故郷「直江津」、人として大きく成長させてくれた「直江津中学校」、この地で、この学校で学んだことを誇りに、いざ世のための精神で大きく羽ばたくことを期待し、卒業生115名の皆さんへの式辞といたします。

多数のご来賓の方から式に参列いただきました。大変ありがとうございました。

支えてくれた仲間へ感謝しよう

あなたにとって、令和7年度はどんな1年でしたか？楽しかったこと、できるようになったこと、成長したことがたくさんあるはず。しかし、毎日が楽しかったり、成長を実感したりしたわけではないですね。悩みや不安で切なかった日、気持ちが沈んで前向きになれなかった日、友達とけんかしてどうしていいかわからなかった日、多かれ少なかれ、きっと誰もがそんな気持ちを抱えた日があったに違いありません。そんな思いを抱えながら登校したとき、それを察して話を聞いてくれた仲間、口には出さずとも一緒にいてくれた仲間、落ち込んでいることを吹き飛ばすほどの笑顔と元気をくれた仲間、アドバイスをくれたり叱ってくれたりした仲間がいたのではないかと思います。支えてくれるありがたさを知るとともに、人を支える喜びを知ること。そして、人と関わる力を身に付けていく。これが学校で一番経験してほしいことです。1年間を振り返ってみてください。脳裏に幾つも浮かびますよね。そして、思い返すと元気が出てきませんか。その気持ちをもって、来年もすてきな1年にしていきたいと思います。



保護者の皆様、地域の皆様、1年間、直江津中学校の諸活動にご支援、ご協力をいただきありがとうございました。保護者、地域とともに協力して子供を育てることを大切にし、学校の情報だけでなく校長の考えや思いも発信し、たよりに書いてきました。いかがでしたでしょうか。お会いした際にいただく言葉に、信頼と協力をいただけていると感じ、自信をもって学校運営していくことができました。おかげさまで339名の生徒たちは大きく成長し、温かい雰囲気のある学校生活を送ることができたと感じています。来年度も、教職員と保護者が連携・協力しながら、生徒を育てていきたいと考えております。よろしく願いいたします。

県中体連スローガンに選ばれる！

来年度からの新潟県中学校総合体育大会スローガンに、1年生の生徒の作品が選ばれました。おめでとうございます。

「努力の先で 花は咲く
未来へつなげ 最高のステージへ」

令和8年度から12年度までの5年間、新潟県中学校総合体育大会の競技会場、競技プログラム、関係資料に掲載されます。